

公益社団法人 日本技術士会中部本部 電気電子情報工学部会 2 月例会のご案内

【主催】中部本部 電気電子情報工学部会

当部会では、定期的に例会（講演会、Web 講演会、見学会）を実施しており、2 月度の例会（講演会）を下記のように企画しましたのでご案内申し上げます。

電気電子情報工学部会の会員に限らず、多くの皆様の参加をお待ちしております。

記

1. 日時：平成 30 年 2 月 17 日(土) 13:30～17:00（受付 13:00 より）
2. 場所：名古屋学院大学名古屋キャンパス（日比野学舎）501 教室
名古屋市中熱田区大宝 3 丁目 1-17
（名古屋市地下鉄名港線「日比野」駅 5 番出口を出てすぐ左手）
大学 URL はこちら→ <http://www.ngu.jp/outline/campus/nagoya/>
3. プログラム（講演の概要については 3 ページ目に記載）
13:00-13:30 受付
13:30-13:35 主催者開会挨拶
13:35-14:35 講演 1：「高出力電磁パルスの国際規格と防護」
市川 孝博氏（技術士：電気電子、勤務先：日新電通技研(株)）
14:35-14:45 （休憩）
14:45-15:45 講演 2：「廃棄物処理施設のエネルギー高効率化」
渡邊 永策氏（技術士：電気電子、勤務先：海部地区環境事務組合）
15:45-16:45 講演 3：「ヒューマンエラーと設備エンジニアリング」
古久根 伸征氏（技術士：電気電子、総合技術監理、勤務先：日本ガイシ(株)）
16:45-17:00 連絡事項、主催者閉会挨拶 および 会場片付け
(17:10～) === 《交流会出発（送迎バス）》 ===
17:30-19:30 交流会（バス送迎有：講演会場⇒交流会（17:10発）、交流会⇒金山駅（19:30発））
※希望者のみ。内容は 5 項参照
4. 参加費用：日本技術士会会員 ----- 1,000 円
中部エレクトロニクス振興会会員 --- 1,000 円
非会員 ----- 2,000 円
学生 ----- 無料
5. 交流会 17:10（バスお迎え）～19:30（会終了後、金山駅にバスでお送りします）
出席：希望者のみ
場所：「笑家 日比野店」名古屋市中熱田区野立町 1 丁目 8 9 TEL：052-671-7788
会費：3,800 円（予定）
6. 申込み先
申込みは下記の Web フォームからお願いいたします。（申込期限 2 月 9 日(金)）
→<https://goo.gl/forms/tKZStHesTCguyOp52>
Web からの申込みができない場合、キャンセルする場合は、
部会講演会幹事(mailto:dib_uketsuke@googlegroups.com)まで、氏名、部門、会員・非会員の区別、
交流会の参加の有無をご連絡下さい。

以上

会場案内

大学 URL はこちら→ <http://www.ngu.jp/outline/campus/nagoya/>

【交通アクセス】



【広域地図】



講演概要

講演 1 : 「高出力電磁パルスの国際規格と防護」

市川 孝博氏 (技術士：電気電子、勤務先：日新電通技研㈱)

北朝鮮の EMP(電磁パルス)ミサイル攻撃の報道発表で、急遽一般市民生活への脅威として取り上げられる様になったこの EMP(電磁パルス)について、その背景と国際規格(国際電気標準:IEC SC77C)及びその防護について、EMC の観点より簡単に説明します。

現在の IoT 社会では、電力線や通信インフラが破壊されることによる、ブラックアウト現象がどれほどの脅威かを認識頂けると思います。

また、かつてアメリカでの原爆実験から、核反応による電磁パルスの発生と、電力線障害が実際に発生したケースも紹介します。

同様の脅威としての、太陽フレア現象についても、この防護が有用であることも紹介します。

講演 2 : 「廃棄物処理施設のエネルギー高効率化」

渡邊 永策氏 (技術士：電気電子、勤務先：海部地区環境事務組合)

地球温暖化対策、東日本大震災など災害時のエネルギー需給逼迫や災害廃棄物処理、国や市町村の財源不足など廃棄物処理施設に要求される機能は、高度化・複雑化しています。そこで、最近、実施されている廃棄物処理施設におけるエネルギーの高効率化について電気電子分野の視点にたって説明します。

講演 3 : 「ヒューマンエラーと設備エンジニアリング」

古久根 伸征氏 (技術士：電気電子、総合技術監理、勤務先：日本ガイシ㈱)

ヒューマンエラーが起因となるトラブルは、枚挙に暇がありません。ヒューマンエラーが起因となる身近な事例から有名な事例を紹介し、ヒューマンエラー対策の重要性を述べます。

ヒューマンエラーの分類を通じ、その対策方法を実務的に検討します。特に自身が日常業務として携わっている「設備の制御エンジニアリング」に関して、具体例を交えて提示します。

講演を通じ、皆様の身近なヒューマンエラーの原因究明から、その対策を検討するまでの効率アップや、ヒントを見つける一助となれば、幸いです。